



プライマリ・ケア連合学会北海道地方会で、若手からベテラン総合医を対象としたEBMワークショップを開催



近隣住民向けの「健康まつり」イベントでBLS(一次救命処置)の指導を行う



札幌市白石区を支える北海道勤医協札幌病院

大学時代に診療科ごとに細分化された美習を受け、どこか「専門外のことは関係ない」という雰囲気に違和感を感じたという佐藤健太氏。もともとへき地医療に興味があつたこともあり、札幌にある北海道勤医協中央病院へ見学に行つた。

田舎やへき地だけではない「コミュニティ・メディスン」

佐藤健太氏は、ほとんどの医療がへき地に行つた。当時としてはかなり珍しかったと連携を取つている姿を見て驚きました。実際に地域研修ではへき地医療も経験し、面白さを実感した。しかし、そこの魅力を伝え、研修医を育てて送り出していく。それならば自分がへき地にすることに意義があるのではないか。そうした思いで勤医協に勤めて14年になりました。

実際に地域研修ではへき地医療も経験し、面白さを実感した。しかし、そこの魅力を伝え、研修医を育てて送り出していく。それならば自分がへき地に行くよりも、都市部の病院で地域医療の魅力を伝え、研修医を育てて送り出すことには意義があるのではないか。そうした思いで勤医協に勤めて14年になりました。

佐藤氏が考える家庭医の存在意義は、カバーする医療圏の人々の日常生活をきちんと診療すること、それが悪化しないように予防医療を実施すること、そして慢性疾患をコントロールしながらコミュニケーションの中で過ごせるようになります。

佐藤氏が考える家庭医の存在意義は、カバーする医療圏の人々の日常生活をきちんと診療されること、それが悪化しないように予防医療を実施すること、そして慢性疾患をコントロールしながらコミュニケーションの中で過ごせるようになります。

白石区の貧困を徹底的に分析とりこぼしのない医療提供を

家庭医の診療では、例えば風邪や高血圧などのcommon diseaseを、各診療科の専門医よりも深く診ることができなければならぬと佐藤氏は考えます。その上で特殊な病態で精査が必要な場合や、専門治療が必要な人を見極めて専門医につなぐことが求められます。佐藤氏が家庭医として診療をする中で、本当に専門医への紹介が必要な患者は「1%もない」というのが実感だ。精神疾患や併存疾患がある場合や、経済的な問題を抱える患者など、家庭医だからこそ総合的にケアできる症例は多い。さらに短時間に多くの患者を、質をキープしたまま診療するためには、患者のモチベーションを高め、自主的に健康的な行動ができるよう促

すスキルが重要になる。

「その地に根を下ろして地域特性を知り、共通する健康問題を見ていくと、地域によってcommon diseaseの分布は全く違います。それは大学からの派遣で1、2年地域医療に携わっただけでは分からぬこと。家庭医としての感覚がつかめるようになるには、10年はかかります」

今後目指すのは、まだ病院にアクセスできない人たちとつながるためのネットワーク作りだ。佐藤氏は白石区の統計データ、関係者への聞き取り、同院の外来患者への調査データをマップ上で重ね、地域が抱える「社会的問題」を分析。白石区は大正時代に中央区すすきのから遊郭が移転され、戦後には川沿いに外地からの引揚者が住み着いた歴史的背景があり、社会的階層の低い人が集まる地域になつたといふ。そうした背景を踏まえ、生活困窮者が病院にたどり着けていない現状を明らかにした。

「ただ病院で患者を待つていても、手遅れになる事例は増え続けるでしょう。貧困を見逃さずに医療が介入できる仕組みが作られれば、受診できずに亡くなる人は減らしていく。そのため必要なものが、医療の枠を越えた連携です」

すでに複数の医療機関や大学、介護福祉組織、保健師、社会活動に取り組むNPO法人と情報交換し、ネットワーク作りに向けて動き出している。



profile

さとう・けんた
2005年に東北大医学部を卒業。学生時代に千葉県流山市にある東葛病院を見学し、外来から病棟、往診、産業医活動と「地域の患者を何でも診る」医師の姿が印象に残り総合診療科の道を選ぶ。2007年に北海道勤医協中央病院に勤務後、旭川、釧路の関連病院を回り、道北にある診療所でへき地医療にも携わる。2011年から北海道勤医協札幌病院の内科医長、2016年から副院長を務める。日本内科学会 総合内科専門医。日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医・指導医。

白石区の医療問題を分析 都市部でできる地域医療を

北海道勤医協札幌病院 副院長

佐藤 健太

ティー・メディスン」と言うのです。だとしたら自分が札幌で、家庭医としてできる地域医療は何だろうと考えるようになりました

田舎やへき地だけではない「コミュニティ・メディスン」

「まだ総合診療が『外来を振り分ける診療科』のように思っていた時代。他科の専門医から信頼されて、対等に連携を取つている姿を見て驚きました。当時としてはかなり珍しかったと思います」

来院しやすい診療環境を作る

現在勤務する勤医協札幌病院は札幌市白石区にある。札幌市に10ある区のうちの一つで、市の中心部からのアクセスがよく人口は21万人を超える。「地域医療の地域」というのは田舎やへき地の意味ではなく、家庭医療学では「コミュニティ」に当たるもの。つまり文化的な背景が共通している人々の集まりに対する医療を、「コミュニティ」を把握し、地域の特性・問題を把握し、地域医療の課題とは

今回、3人の医師への取材を通して浮かび上がったのが、①地域医療を行う若手医師の育成、②医師のキャリア形成の2つである。医療過疎地では、医師が一人で地域医療を担っているケースが多く、後継者となる医師の指導は重要である。都市部で地域医療を担う佐藤氏も、家庭医の人材確保は難しいという。ただ、その一方で「関心領域や働き方がマッチする人は多い」と手応えも感じており、今後、家庭医について広く理解が進めば、目の前で小児科医や産婦人科医と連絡のためには必ず地域医の存在意義を知らなければなりません。白石区は札幌市に10ある区のうちの一つで、市の中心部からのアクセスがよく人口は21万人を超える。「地域医療の地域」というのは田舎やへき地の意味ではなく、家庭医療学では「コミュニティ」に当たるもの。つまり文化的な背景が共通している人々の集まりに対する医療を、「コミュニティ」を把握し、地域の特性・問題を把握し、地域医療の課題とは

今回、3人の医師への取材を通して浮かび上がったのが、①地域医療を行う若手医師の育成、②医師のキャリア形成の2つである。医療過疎地では、医師が一人で地域医療を担っているケースが多く、後継者となる医師の指導は重要である。都市部で地域医療を担う佐藤氏も、家庭医の人材確保は難しいといふ。ただ、その一方で「関心領域や働き方がマッチする人は多い」と手応えも感じており、今後、家庭医について広く理解が進めば、目の前で小児科医や産婦人科医と連絡のためには必ず地域医の存在意義を知らなければなりません。白石区は札幌市に10ある区のうちの一つで、市の中心部からのアクセスがよく人口は21万人を超える。「地域医療の地域」というのは田舎やへき地の意味ではなく、家庭医療学では「コミュニティ」に当たるもの。つまり文化的な背景が共通している人々の集まりに対する医療を、「コミュニティ」を把握し、地域の特性・問題を把握し、地域医療の課題とは

今回、3人の医師への取材を通して浮かび上がったのが、①地域医療を行う若手医師の育成、②医師のキャリア形成の2つである。医療過疎地では、医師が一人で地域医療を担っているケースが多く、後継者となる医師の指導は重要である。都市部で地域医療を担う佐藤氏も、家庭医の人材確保は難しいといふ。ただ、その一方で「関心領域や働き方がマッチする人は多い」と手応えも感じており、今後、家庭医について広く理解が進めば、目の前で小児科医や産婦人科医と連絡のためには必ず地域医の存在意義を知らなければなりません。白石区は札幌市に10ある区のうちの一つで、市の中心部からのアクセスがよく人口は21万人を超える。「地域医療の地域」というのは田舎やへき地の意味ではなく、家庭医療学では「コミュニティ」に当たるもの。つまり文化的な背景が共通している人々の集まりに対する医療を、「コミュニティ」を把握し、地域の特性・問題を把握し、地域医療の課題とは

今回、3人の医師への取材を通して浮かび上がったのが、①地域医療を行う若手医師の育成、②医師のキャリア形成の2つである。医療過疎地では、医師が一人で地域医療を担っているケースが多く、後継者となる医師の指導は重要である。都市部で地域医療を担う佐藤氏も、家庭医の人材確保は難しいといふ。ただ、その一方で「関心領域や働き方がマッチする人は多い」と手応えも感じており、今後、家庭医について広く理解が進めば、目の前で小児科医や産婦人科医と連絡のためには必ず地域医の存在意義を知らなければなりません。白石区は札幌市に10ある区のうちの一つで、市の中心部からのアクセスがよく人口は21万人を超える。「地域医療の地域」というのは田舎やへき地の意味ではなく、家庭医療学では「コミュニティ」に当たるもの。つまり文化的な背景が共通している人々の集まりに対する医療を、「コミュニティ」を把握し、地域の特性・問題を把握し、地域医療の課題とは

今回、3人の医師への取材を通して浮かび上がったのが、①地域医療を行う若手医師の育成、②医師のキャリア形成の2つである。医療過疎地では、医師が一人で地域医療を担っているケースが多く、後継者となる医師の指導は重要である。都市部で地域医療を担う佐藤氏も、家庭医の人材確保は難しいといふ。ただ、その一方で「関心領域や働き方がマッチする人は多い」と手応えも感じしており、今後、家庭医について広く理解が進めば、目の前で小児科医や産婦人科医と連絡のためには必ず地域医の存在意義を知らなければなりません。白石区は札幌市に10ある区のうちの一つで、市の中心部からのアクセスがよく人口は21万人を超える。「地域医療の地域」というのは田舎やへき地の意味ではなく、家庭医療学では「コミュニティ」に当たるもの。つまり文化的な背景が共通している人々の集まりに対する医療を、「コミュニティ」を把握し、地域の特性・問題を把握し、地域医療の課題とは

今回、3人の医師への取材を通して浮かび上がったのが、①地域医療を行う若手医師の育成、②医師のキャリア形成の2つである。医療過疎地では、医師が一人で地域医療を担っているケースが多く、後継者となる医師の指導は重要である。都市部で地域医療を担う佐藤氏も、家庭医の人材確保は難しいといふ。ただ、その一方で「関心領域や働き方がマッチする人は多い」と手応えも感じており、今後、家庭医について広く理解が進めば、目の前で小児科医や産婦人科医と連絡のためには必ず地域医の存在意義を知らなければなりません。白石区は札幌市に10ある区のうちの一つで、市の中心部からのアクセスがよく人口は21万人を超える。「地域医療の地域」というのは田舎やへき地の意味ではなく、家庭医療学では「コミュニティ」に当たるもの。つまり文化的な背景が共通している人々の集まりに対する医療を、「コミュニティ」を把握し、地域の特性・問題を把握し、地域医療の課題とは

今回、3人の医師への取材を通して浮かび上がったのが、①地域医療を行う若手医師の育成、②医師のキャリア形成の2つである。医療過疎地では、医師が一人で地域医療を担っているケースが多く、後継者となる医師の指導は重要である。都市部で地域医療を担う佐藤氏も、家庭医の人材確保は難しいといふ。ただ、その一方で「関心領域や働き方がマッチする人は多い」と手応えも感じており、今後、家庭医について広く理解が進めば、目の前で小児科医や産婦人科医と連絡のためには必ず地域医の存在意義を知らなければなりません。白石区は札幌市に10ある区のうちの一つで、市の中心部からのアクセスがよく人口は21万人を超える。「地域医療の地域」というのは田舎やへき地の意味ではなく、家庭医療学では「コミュニティ」に当たるもの。つまり文化的な背景が共通している人々の集まりに対する医療を、「コミュニティ」を把握し、地域の特性・問題を